令和７年度 文部科学省
専修学校の国際化推進事業

# 九州地域での留学生受入強化および
# 就職・定着促進のための体制モデル構築事業

## 事　業　報　告　書

令和８年３月

学校法人九州総合学院
SCHOOL INSTITUTION of KYUSHU SOGO GAKUIN

# 目　次


1.　事業概要 ..... 5
1.1.　事業の趣旨・目的 ..... 5
1.2.　事業背景 ..... 5
1.2.1.　九州における行政の方針と地域の産業 ..... 5
1.2.2.　九州における人材不足 ..... 7
1.2.3.　九州における留学生への期待 ..... 8
1.3.　今年度事業の取組概要 ..... 8
1.3.1.　会議の開催実績 ..... 8
1.3.2.　調査実績 ..... 11
1.3.3.　体制整備【①入学前の留学希望者等に対する取り組み】 ..... 11
1.3.4.　体制整備【②在学中の教育指導に関する取り組み】 ..... 11
1.3.5.　体制整備【③在学中の在籍管理および生活支援サポートに関する取り組み】 11
1.3.6.　体制整備【④就職・定着支援に関する取り組み】 ..... 11
2.　調査報告 ..... 12
2.1.　留学生アンケート調査 ..... 12
2.1.1.　調査概要 ..... 12
2.1.2.　調査結果 ..... 13
2.1.3.　調査結果のまとめ ..... 16
3.　体制整備【①入学前の留学希望者等に対する取り組み】 ..... 17
3.1.　多言語パンフレットの制作 ..... 17
3.2.　留学生インタビュー動画の制作 ..... 20
3.3.　日本語教育機関との連携 ..... 21
3.4.　SNS の運用 ..... 21
4.　体制整備【②在学中の教育指導に関する取り組み】 ..... 25
4.1.　キャリア学習教材の改訂 ..... 25
4.2.　専門課程における学習を支援する教材の試作 ..... 29
5.　体制整備【③在学中の在籍管理および生活支援サポートに関する取り組み】 ..... 33
5.1.　生活指導用コンテンツの試作 ..... 33
6.　体制整備【④就職・定着支援に関する取り組み】 ..... 35
6.1.　業界団体・企業との連携体制の構築 ..... 35
付録 ..... 41

**実施委員会の構成**

| 組織名 | 役割等 | 都道府県 |
|---|---|---|
| 学校法人九州総合学院 | 事業統括 | 熊本県<br>鹿児島県<br>長崎県 |
| 学校法人宮崎総合学院 | 調査・開発・実証・評価 | 宮崎県 |
| 鹿児島情報ビジネス公務員専門学校 | 調査・開発・実証・評価 | 鹿児島県 |
| 九州工科自動車専門学校 | 調査・開発・実証・評価 | 熊本県 |
| 宮崎福祉医療カレッジ | 調査・開発・実証・評価 | 宮崎県 |
| 宮崎情報ビジネス専門学校 | 調査・開発・評価 | 宮崎県 |
| 西鉄自動車整備専門学校 | 調査・開発・評価 | 福岡県 |
| 琉球大学 | 調査・開発・評価 | 沖縄県 |
| 五島日本語学校 | 調査・開発・評価 | 長崎県 |
| T-Under | 調査・開発・評価 | ベトナム<br>ハノイ |
| (一社)鹿児島県専修学校協会 | 評価 | 鹿児島県 |
| (一社)熊本県専修学校各種学校連合会 | 評価 | 熊本県 |
| (一社)宮崎県専修学校各種学校連合会 | 評価 | 宮崎県 |
| (一社)鹿児島県情報サービス産業協会 | 調査・実証・評価 | 鹿児島県 |
| (一社)熊本県自動車整備振興会 | 調査・実証・評価 | 熊本県 |
| (福)つよし会 | 調査・実証・評価 | 宮崎県 |
| (特非)鹿児島インファーメーション | 調査・実証・評価 | 鹿児島県 |
| (特非) みやざき国際サポートセンター | 評価 | 宮崎県 |
| (一財)日本教育基盤財団 | 開発・実証・評価 | 東京都 |
| (一財)日本検定基盤財団 | 事業統括支援<br>調査・開発・実証・評価 | 東京都 |
| (株)フォーエバー | 評価 | 鹿児島県 |
| 熊本日野自動車（株） | 評価 | 熊本県 |
| (株)VIT JAPAN | 調査・開発・実証・評価 | ベトナム<br>ホーチミン |
| 鹿児島県総務部学事法制課 | 評価 | 鹿児島県 |
| 宮崎県総合政策部みやざき文化振興課 | 評価 | 宮崎県 |

# 1. 事業概要

## 1.1. 事業の趣旨・目的

九州では地理的優位性を活かし「アジアのゲートウェイとして持続的な発展を目指す」ための地方成長産業戦略をとりまとめており、「先端技術・ビッグデータ」の活用や「次世代自動車」「医療・福祉機器・サービス」などが挙げられている。鹿児島県や宮崎県はIT、熊本県は自動車産業に注力しているほか、九州全体で介護・ヘルスケア産業の振興を図ろうとしている。

今後も九州で継続的に当該産業が発展していくためには、IT エンジニアや自動車整備士、介護士といった人材が不可欠だが、日本全体でこのような人材が不足している現状がある。これに対し、これらの分野は留学生に人気があり、専門学校による受け入れと教育が進んでおり、多くの元留学生が既に地域の企業や産業に貢献している実績もある。

今後、九州の産業人材ニーズに応えるために、専門学校は留学生への教育にも注力し、質の高い教育と就職支援を提供することが重要であり、そのための仕組みを構築する必要がある。

この事業では、九州の IT・情報分野、自動車整備分野、介護分野の専門学校で留学生を「入学前」「在学中」「就職・定着」の各段階で支援する体制を産学官の連携により構築し、ベトナム、ネパール、インドをターゲット国として支援体制のモデル化を目指す。

## 1.2. 事業背景

### 1.2.1. 九州における行政の方針と地域の産業

九州・沖縄地域の知事と経営者による九州・沖縄地方産業競争力協議会は令和 3 年 3 月、地理的なアドバンテージを活かし「アジアのゲートウェイとして持続的な発展を目指す」ための地方成長産業戦略を取りまとめた。その中では、「先端技術・ビッグデータ」の活用や「次世代自動車」「医療・福祉機器・サービス」などが挙げられている。

#### (1) 鹿児島県・宮崎県における IT 産業

近年、様々な地方自治体が新たな産業としてITの振興に注力する例が増加している。鹿児島県は、平成29年に施行された「地域未来投資促進法」において、重点的に取り組む地域経済牽引分野に情報通信関連産業（≒IT 産業）を選定した。また、情報通信関連業種の立地・移転への補助金も充実させ、IT系企業の誘致を進めているほか、IT関連のスタートアップ支援にも取り組んでいる。さらに、肝付町の国内初の自治体主導によるスマート畜産や東町の ICT を活用したブリの養殖管理等、県の主要産業にも IT を活用した技術革新が進んでいる。

同様に、宮崎県でも IT 企業の誘致が盛んで、宮崎市における GMO インターネットグループのサテライトオフィスの開業、日南市の油津商店街における 10 社以上の IT 企業進

出等が例として挙げられる。また、2007 年に宮崎市に設立された IT ベンチャー企業株式会社アタラナ（2020 年株式会社 ZOZO に吸収合併）の出身者が次々と IT ベンチャー企業を宮崎県内に設立し、「アタラナマフィア」として紹介されるなど、魅力のある IT 系企業が続々と誕生している。さらに、鹿児島県・宮崎県はニアショア開発の拠点としても注目されており、多数の企業やオフィスが進出している。。

### (2) 熊本県における自動車産業

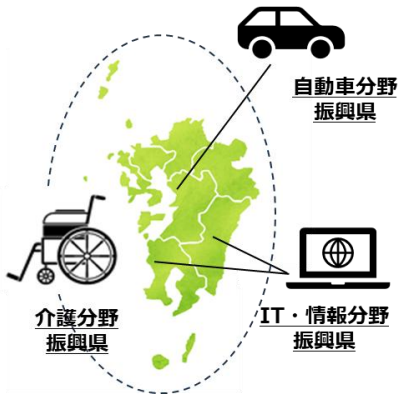
自動車産業は我が国の主要産業のひとつである。特に九州は「カーアイランド」とも呼ばれており、特に熊本県には数多くの自動車関連産業が立地している。また、先進的な自動車の実証実験や導入にも熱心である。

熊本市は令和元年度に内閣府から「SDGs 未来都市」として選定されおり、電気自動車や EV バスの電力供給に係る官民連携、EV バスの運行による電力を中核としたライフラインの強靭化など、EV 車を通じた社会変革に取り組んでいる。また、県南部の芦北町における道の駅を拠点とした自動運転技術の実証実験が実施されたほか、今後も熊本市、JR 九州、住友商事の三社連携による自動運転技術の実証実験が予定されている。

### (3) 九州における介護・ヘルスケア産業

高齢化は日本全国での課題であるが、九州経済産業局『九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する調査報告書』（2018 年 3月）によれば、九州では医療・介護需要のピークが 2025 年に到来する。全国平均は 2042 年であり、九州は日本で最も早いと予想されている。

2018 年度には「九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する研究会」を設置し、AI・IoT を活用して介護などのヘルスケア分野に技術革新を起こし、「健康寿命の延伸」、ひいては世界に先駆けた「生涯現役社会」の実現に向けて取り組んでいる。




図表 1 九州における地域の重要な産業

### 1.2.2. 九州における人材不足

今後も九州で継続的にIT産業や自動車産業、介護・ヘルスケア産業が発展していくためには、IT エンジニアや自動車整備士、介護士といった当該産業に携わる人材が不可欠である。特に、Society5.0 の到来や SDGs にもとづく持続可能な社会の実現に向けて、AI・IoT・ビッグデータといった先端技術を扱うことができる IT 人材や EV 車・自動運転車にといった次世代のモビリティに対応できる整備士、次世代ヘルスケアを支える介護士の需要はますます増加することが予想されている。

しかし、2016 年の経済産業省の試算によると日本は 2030 年時点で最大約 79 万人の IT 人材不足に直面する恐れがある。また、同省の 2019 年の試算によれば、「AI やビッグデータ、IoT 等、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材」と定義された「先端 IT 人材」も 55 万人不足する見込みであるという。

自動車整備要員数は、日本全体で見ると 2013 年度から 2023 年度の 10 年間で 11,955 人も減少している状態である。また、2022 年には有効求人倍率が 5.02 となっており人手不足が深刻になっている。さらに、平均年齢が 47.2 歳となっており高齢化も進んでいる。

介護士の不足に関しては厚生労働省『第 8 期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について』によれば、ピークは 2025 年度の約 5 万人の不足となっているが、ピーク後の 2040 年度においても毎年 3 万人程度の不足になるという。

さらに、九州経済調査協会がまとめた 2024 年版九州経済白書によると、九州の人手不足数は 2022 年の 16 万 6 千人から 2030 年は約 3 倍の 49 万 5 千人に急増するとみられる。九州では人口の減少や首都圏等の大都市への人材流出といった問題を常に抱えており、人材の養成・獲得と定着が喫緊の課題となっている。




図表 2 九州における人材不足の現状

### 1.2.3. 九州における留学生への期待

人手不足が深刻な状況の中で、九州・沖縄地方産業競争力協議会は、様々な分野の課題を解決するための横断的取り組みとして「グローバル人材の確保・育成」を挙げており、自治体と企業の連携による留学生の域内企業への就職などが期待されている。特に IT・情報分野や自動車整備分野、介護分野は留学生に比較的人気が高く、専門学校における受け入れが進んでいる。また、専門学校は県内就職率が高く、既に多くの元留学生が外国人材として地域の企業や産業に貢献している実績がある。

しかし、近年はコロナ禍により専門学校における留学生の受け入れは大きな影響を受けた。日本学生支援機構の調査によれば、専門学校＝専修学校（専門課程）に在籍する留学生は大きく減少している。これは、主要な進学元である日本語教育機関の在学生が大きく減っていたことも影響しており、日本語教育機関の在籍者数が現在大きく増加していることから、今後 2 年程度で国内全体の専門学校の留学生数は上昇すると予想される。一方で、全教育機関における熊本県・宮崎県・鹿児島県の留学生はここ数年微増または微減となっている。したがって、九州内の専門学校において今後数年で留学生が増加し、最大数を記録したコロナ禍前の水準に戻ると単純に予想することはできない。

今後も九州において業界の人材ニーズに応えるため、専門学校は日本人だけでなく留学生への教育に注力する必要がある。そして、留学生に対してより質の良い教育を提供し就職の支援をしていくためには、留学生に来日前後で一貫した教育内容を提供する体制や国内の企業・団体との連携による就職と定着の仕組みを構築することが重要となる。

## 1.3.　今年度事業の取組概要

今年度事業では、「会議」、「調査」、「体制整備【①入学前の留学希望者等に対する取り組み】」、「体制整備【②在学中の教育指導に関する取り組み】」「体制整備【③在学中の在籍管理および生活支援サポートに関する取り組み】」「体制整備【④就職・定着支援に関する取り組み】」を実施した。

### 1.3.1. 会議の開催実績

#### (1) 実施委員会

第１回実施委員会は、令和 7 年 7 月 29 日（火）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．委員長挨拶
２．委員紹介
３．昨年度成果の振り返り
４．令和 7 年度事業計画と進捗
５．意見交換

６．その他、事務局からの連絡

今年度の事業計画と昨年度からの継続的取り組みの進捗状況を説明し、了承をいただいた。

第２回実施委員会は、令和８年１月 14 日（水）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．委員長挨拶

２．今年度開発進捗報告

３．IT・情報分野特別講義概要

４．意見交換

５．その他、事務局からの連絡

今年度の開発項目に関する進捗報告と特別講座の実証概要に関する説明を行い、委員から意見をいただいた。

第３回実施委員会は、令和８年２月 12 日（木）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．委員長挨拶

２．留学生アンケート調査結果報告

３．開発報告

４．IT・情報分野特別講義の報告

５．意見交換

６．その他、事務局からの連絡

今年度の調査、開発、実証における成果について報告を行い、委員から意見をいただいた。

**(2) IT 分科会**

第１回 IT 分科会は、令和７年 11 月 21 日（金）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．専門課程の教材試作について

２．キャリア教育について

３．インタビュー動画について

４．アンケートについて

５．特別講義について

今年度の IT・情報分野に関わる取り組み内容を把握し、詳細な仕様の決定とスケジュールついて確認した。

第 2 回 IT 分科会は、令和 7 年 12 月 19 日（金）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．特別講義について

今年度の IT・情報分野の実証である特別講義について、講師と共に内容や進行の確認をするとともに、実施までの間に解決しておくべき課題の共有を行った。

### (3) 自動車整備分科会

第 1 回自動車整備分科会は、令和 7 年 11 月 21 日（月）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．ガイダンス、模擬面接に関して

２．今後の取組について

今年度の特別講義としてのガイダンスと模擬面接、その他の今年度実施予定の取り組み内容を確認し、スケジュールを検討した。

第 2 回自動車整備分科会は、令和 8 年 1 月 15 日（木）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．留学生インタビューに関して

２．留学生アンケートに関して

留学生インタビューの仕様を決定して対象者の選定に関する検討を行い、アンケートの項目についても確認をした。

### (4) 介護分科会

第 1 回介護分科会は、令和 7 年 12 月 5 日（金）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．アンケートについて

２．インタビュー動画について

３．キャリア学習動画について

今年度の実施するアンケート、インタビュー動画撮影、キャリア学習教材の仕様やスケジュールについて検討・調整をした。

第 2 回介護分科会は、令和 8 年 2 月 2 日（月）に開催した。議事内容は以下の通りである。

１．インタビュー動画撮影最終確認

２．撮影立ち合い

留学生インタビュー動画撮影前の最終確認と調整を行い、冒頭に立ち会った。

### 1.3.2. 調査実績

#### (1) 留学生アンケート調査

専門課程及び日本語科に在籍または進学する留学生に対して進学・就職についての意向や地域への意見について調査を行うことで、留学生支援体制を構築する際の参考情報を収集することを目的として、留学生約 200 名にアンケートを行い、回答を集めた。

### 1.3.3. 体制整備【①入学前の留学希望者等に対する取り組み】

#### (1) 多言語パンフレットの制作

本事業に参画する専門学校のパンフレットを英語とベトナム語に翻訳した。また、同内容のウェブ版も制作した。

#### (2) 留学生インタビュー動画の制作

現役の専門学校留学生に対してインタビューを行い、動画コンテンツ化した。

#### (3) 海外日本語教育機関との連携

上記のパンフレットや動画を連携・協力関係のある日本語教育機関において活用した。

#### (4) SNS の運用

Facebook や TikTok を活用して、留学生の様子や事業参画校の情報、日本や九州の文化・社会の情報、ニュースなどを継続的に発信した。

### 1.3.4. 体制整備【②在学中の教育指導に関する取り組み】

#### (1) キャリア学習教材の改訂・試作

IT キャリア教材の改訂、介護キャリア教材の改訂・追加開発を実施した。

#### (2) 専門課程における学習を支援する教材の試作

IT・情報分野の専門課程での活用を想定した教材の試作を行った。

### 1.3.5. 体制整備【③在学中の在籍管理および生活支援サポートに関する取り組み】

#### (1) 生活指導用コンテンツの試作

教員・生活指導担当者がガイダンスなどの際に使用できるコンテンツを試作した。

### 1.3.6. 体制整備【④就職・定着支援に関する取り組み】

#### (1) 生活指導用コンテンツの試作

教員・生活指導担当者がガイダンスなどの際に使用できるコンテンツを試作した。

## 2. 調査報告

本事業では、令和 7 年度に専門課程及び日本語科に在籍または進学する留学生に対して進学・就職についての意向や地域への意見について伺う「留学生アンケート調査」を実施した。

### 2.1. 留学生アンケート調査

#### 2.1.1. 調査概要

**(1) 調査目的**

専門学校の専門課程及び日本語科に在籍または進学する留学生に対して進学・就職意向や地域への意識に関する調査を行うことで、留学生支援体制を構築する際の参考情報を収集することを目的とした。

**(2) 調査対象**

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校の日本語科 2 年生と専門課程の留学生を対象とした。その結果、208 名（日本語科：158 名、専門課程：50 名）から回答を得た。

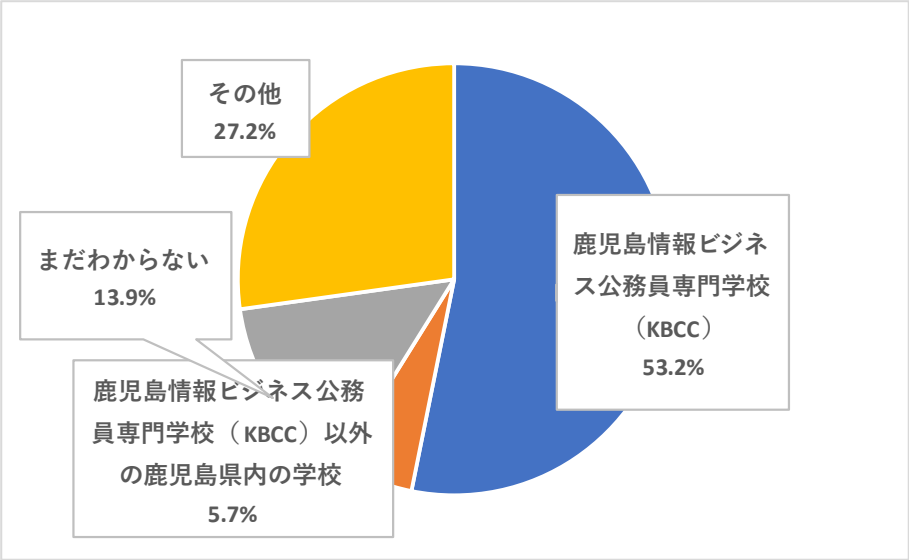
**(3) 調査手法**

出身国、進学に関する希望地域、就職に関する希望地域、現在居住する地域のよいところ、現在居住する地域のよくないところなどの質問項目を設定したアンケート質問票を作成して、オンラインアンケートフォームの URL と QR コードを記載した案内資料を留学生に対して配布した。回答はオンラインアンケートフォームのみで受け付けた。調査結果の集計は日本語科の留学生と専門課程の留学生で分けて行った。

### 2.1.2. 調査結果

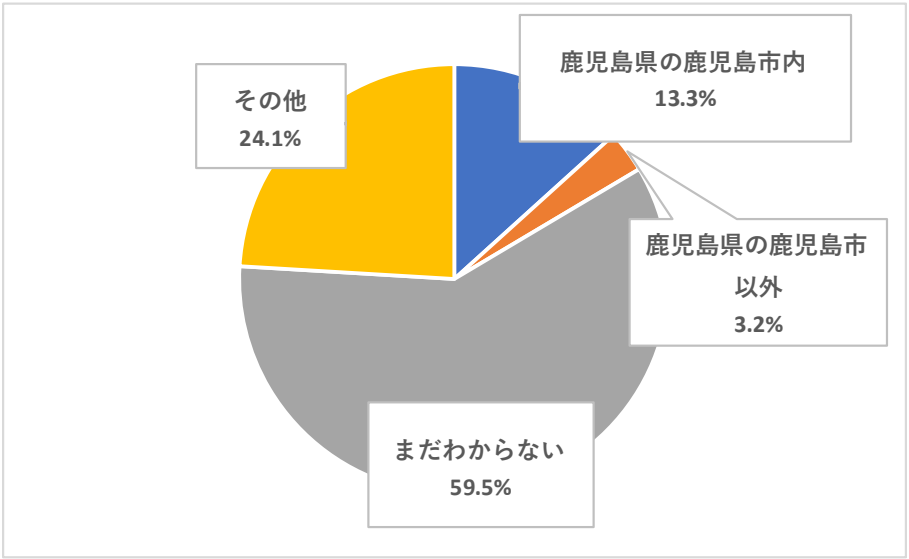
1.　日本語科の留学生

(1) あなたはどこの学校に進学したいですか／進学しますか？



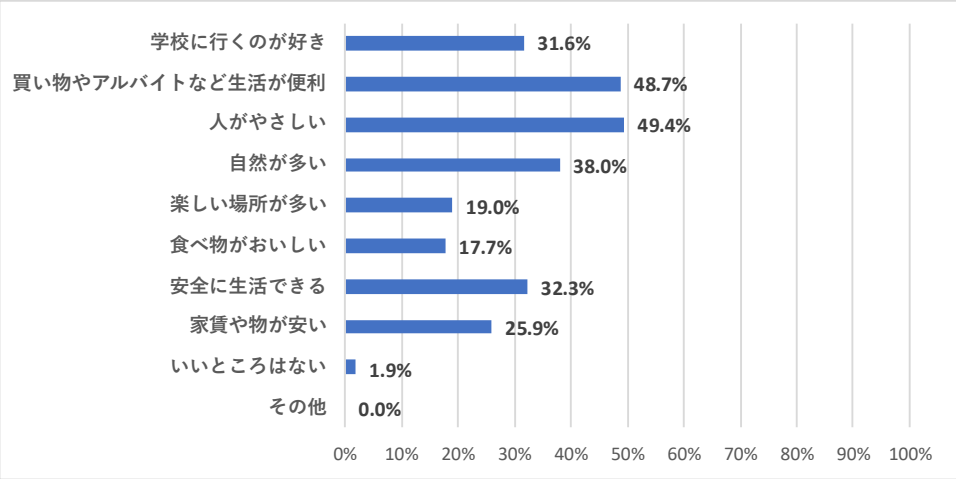

その他：宮崎、東京、大阪、名古屋、神戸、福岡、熊本、埼玉、群馬、静岡、北海道など
その他にも個別の専門学校名も挙がった

(2) あなたはどこで就職したいですか／就職しますか？



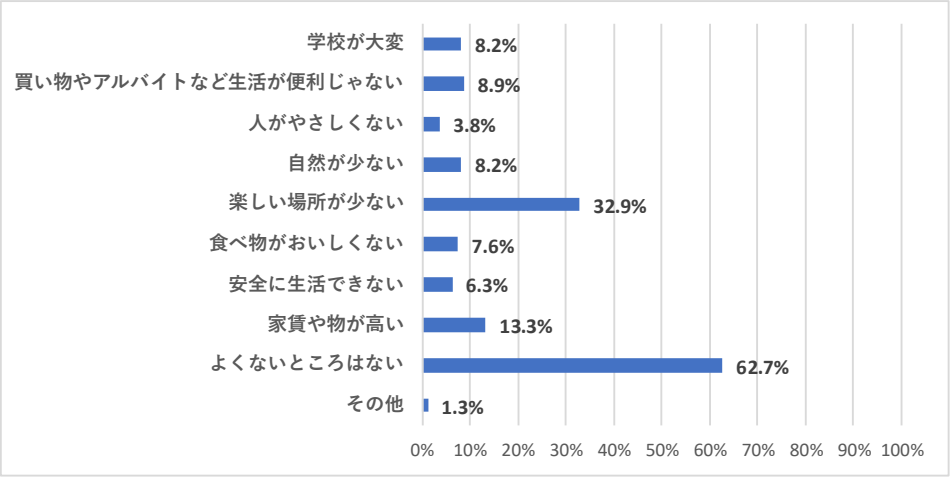

その他：宮崎、東京、大阪、名古屋、福岡、静岡、北海道など

(3) 鹿児島のいいところは何ですか？１つから３つまで選んでください。




その他：なし

(4) 鹿児島のよくないところは何ですか？１つから３つまで選んでください。



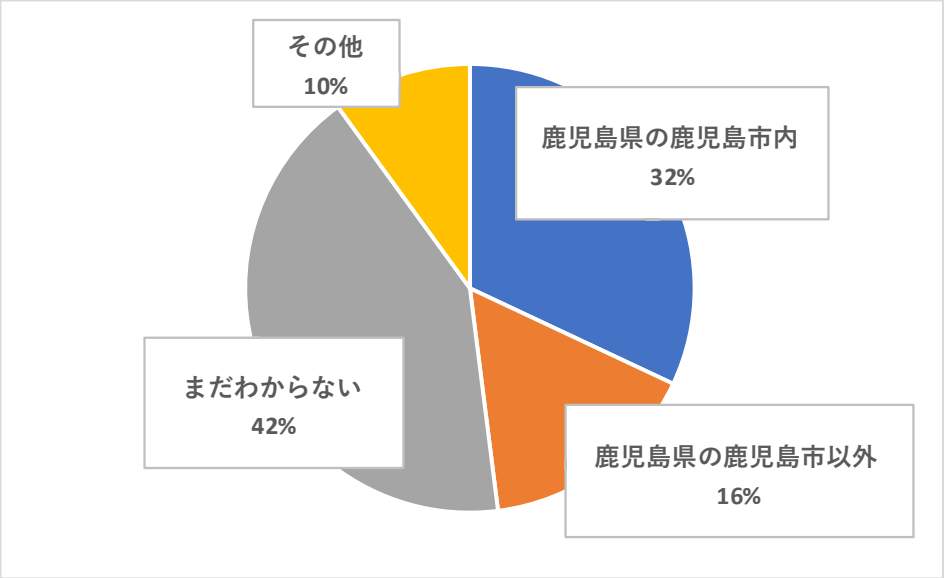

その他：交通の利便性

## 2.　専門課程の留学生

(1) あなたはどこの学校に進学したいですか／進学しますか？

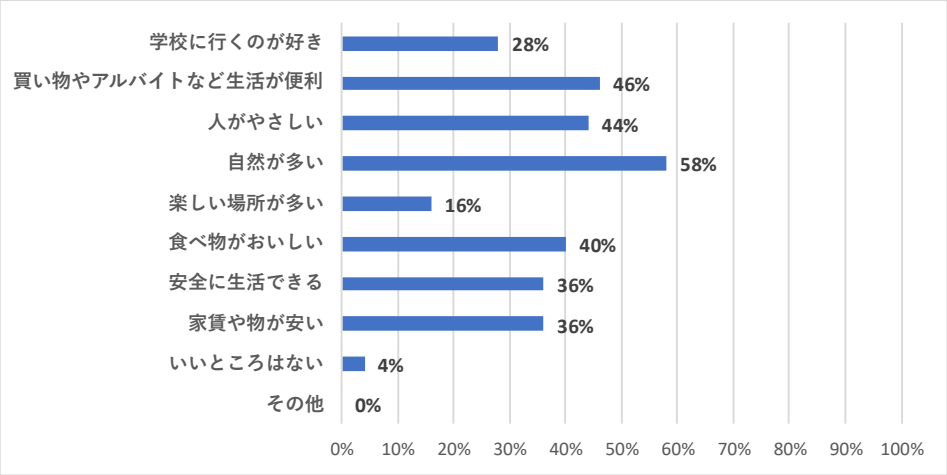
⇒専門課程のため進学希望者はなし

(2) あなたはどこで就職したいですか／就職しますか？



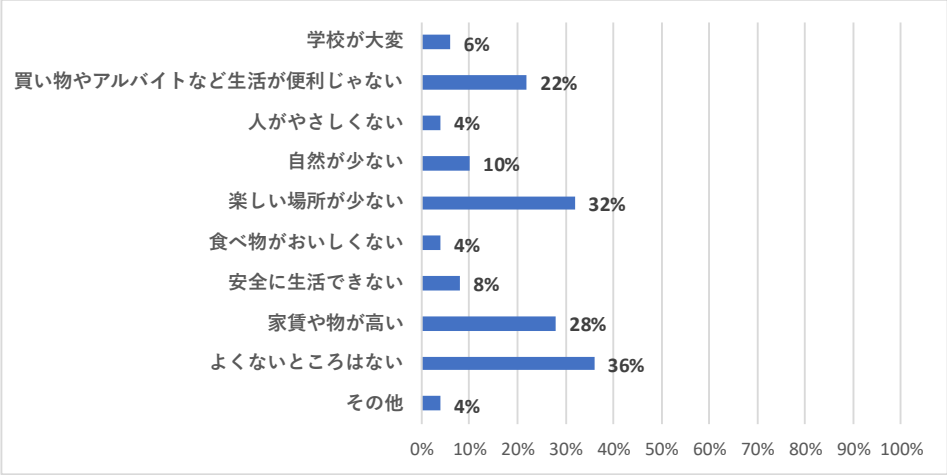

その他：東京、大阪、名古屋、千葉、どこでもいい

(3) 鹿児島のいいところは何ですか？１つから３つまで選んでください。




その他：なし

(4) 鹿児島のよくないところは何ですか？１つから３つまで選んでください。




その他：交通の利便性、ルームメイトとの関係

### 2.1.3. 調査結果のまとめ

今回実施した専門学校アンケートの調査結果について、調査項目ごとに特に注目すべき点のまとめを行う。

今回のアンケート調査の結果からは、進学・就職いずれにおいても「鹿児島県内志向」と「県外大都市志向」の併存が確認できる。日本語科生は進学段階では内部進学を含めた県内を希望する回答も見られる一方、就職希望では県外、とりわけ姉妹法人で内部進学が可能な専門学校が所在する宮崎を除けば東京などの都市部を志向する割合が一定数存在している。専門課程生については、就職希望地域に関する回答から、一定数が鹿児島県内での就職を選択肢としていることがうかがえる。段階が進むにつれて進路意識がより具体化している様子が読み取れる。

鹿児島の「いいところ」としては、日本語科・専門課程ともに、自然環境や生活のしやすさ、物価の安さなど、生活環境面に関する項目が多く選択されていることが確認できる。一方で「よくないところ」としては、仕事の選択肢や賃金水準、交通の利便性などに関する項目が挙げられている。すなわち、生活環境への評価は比較的高い一方、就業機会や都市機能に関する課題が認識されている状況が整理できる。

日本語科生と専門課程生を比較すると、「いいところ」「よくないところ」ともに大きな傾向は共通しており、生活面を肯定的に評価しつつ、就業機会や利便性に課題を感じている点は両者で大きな差は見られない。ただし、専門課程生は回答がより現実的な進路選択と結び付いている様子がうかがえ、日本語科生は将来選択肢を広く捉えている段階にあることが結果から読み取れる。

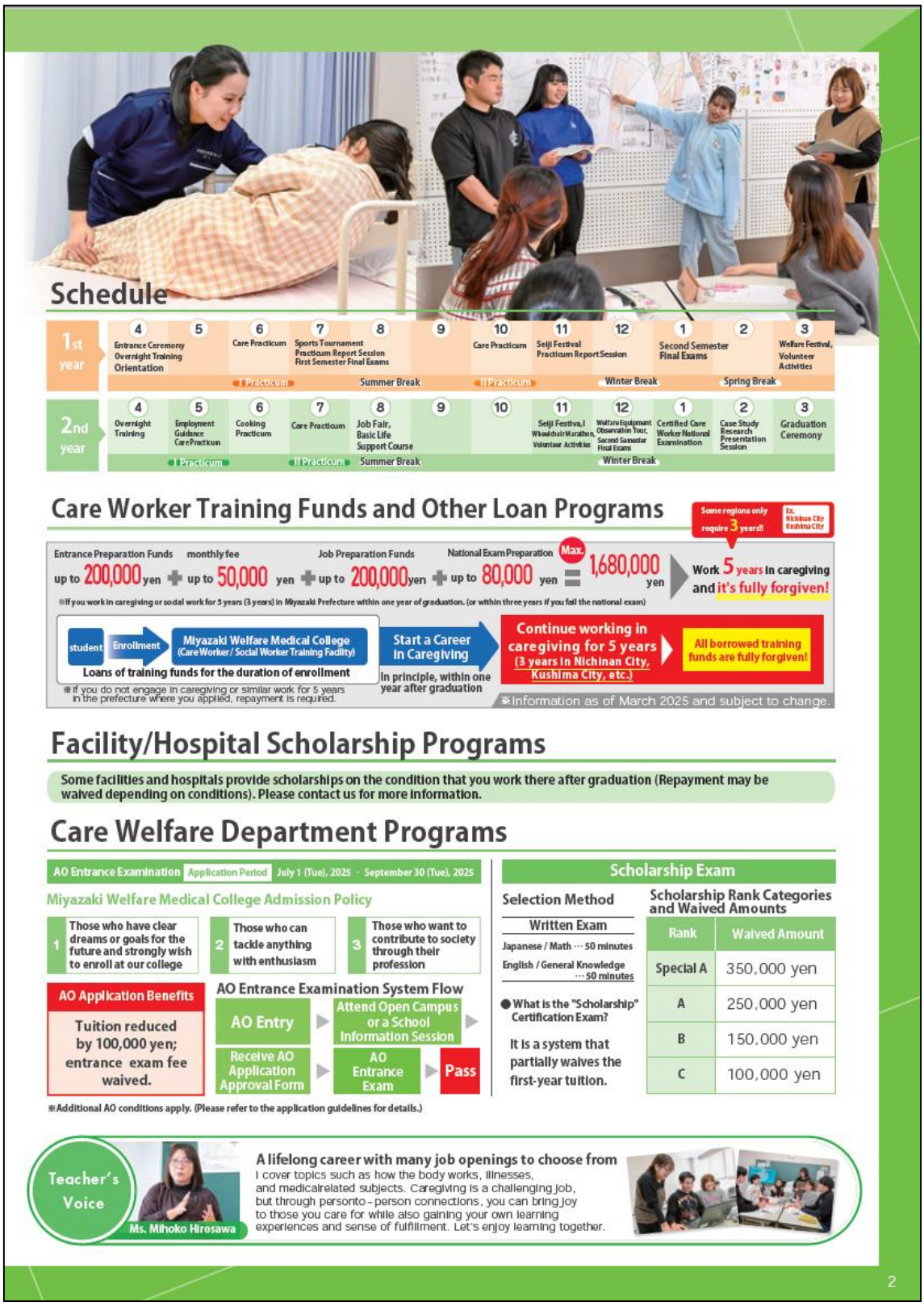
## 3. 体制整備【①入学前の留学希望者等に対する取り組み】

本事業では、令和 7 年度の「体制整備【①入学前の留学希望者等に対する取り組み】」の一環として、「多言語パンフレットの制作」「留学生インタビュー動画の制作」「日本語教育機関との連携」「SNS の運用」という 4 つの取り組みを行った。以下に各取り組みについて述べていく。

### 3.1. 多言語パンフレットの制作

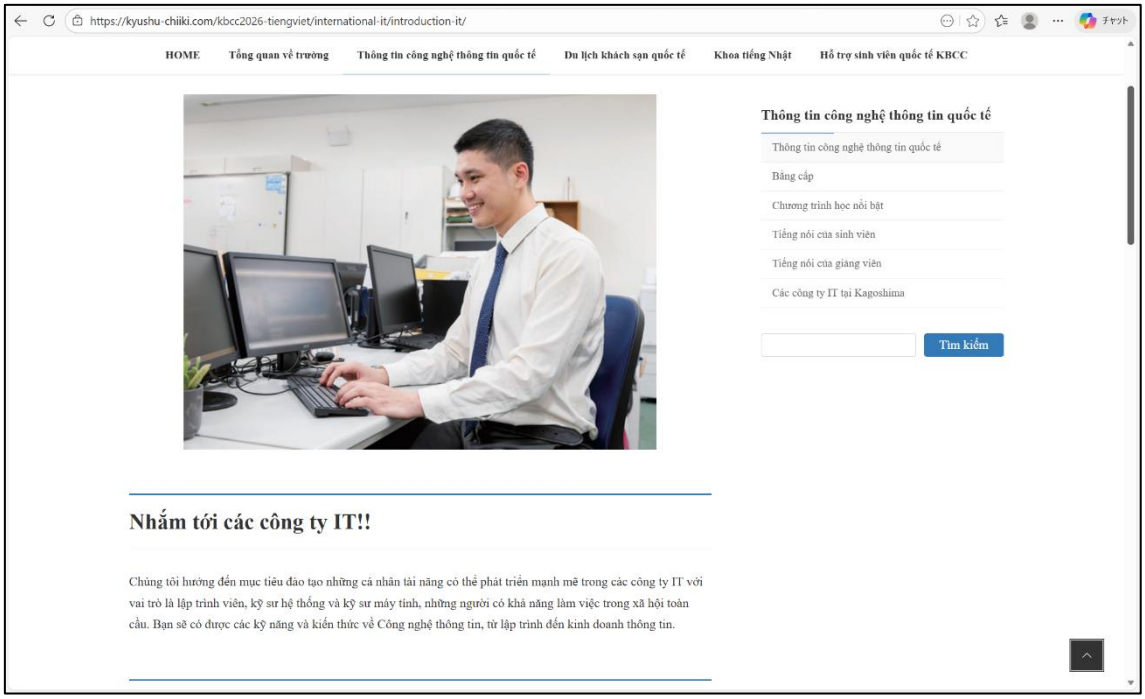
本事業に参画する専門学校のパンフレットをターゲット国（地域）の言語に翻訳し、同内容のウェブ版も制作するという取り組みを昨年度に引き続き行った。今年度は本事業の参画機関である IT・情報分野の鹿児島情報ビジネス公務員専門学校、自動車整備分野の九州工科自動車専門学校、介護分野の宮崎福祉医療カレッジの 3 校を対象とした。本事業のターゲット国であるベトナム、ネパール、インドにおける国語や多くの国民が理解できる言語を検討した結果、今年度も英語とベトナムへの翻訳を行った。

次のページに例として宮崎福祉医療カレッジの英語版パンフレットの一部を示す。




図表３　宮崎福祉医療カレッジの英語版パンフレット

また、PC スマートフォンでも学校情報へのアクセスを容易にできるよう、ウェブサイトも制作した。例として鹿児島情報ビジネス公務員専門学校のベトナム語版サイトを提示する。




**図表 4　鹿児島情報ビジネス公務員専門学校のベトナム語版パンフレットウェブサイト**

### 3.2. 留学生インタビュー動画の制作

現役の専門学校留学生に対して、実際の留学生活に関するインタビューを行い、動画コンテンツ化した。今年度は鹿児島情報ビジネス公務員専門学校の留学生 3 名（ネパール 1 名、ミャンマー1 名、スリランカ 1 名）、九州工科自動車専門学校の留学生 4 名（全員ネパール）、宮崎福祉医療カレッジの留学生 5 名（ベトナム 3 名、ネパール 1 名、アルゼンチン 1 名）、計 12 名分で 26 本のインタビュー動画を作成した。

インタビュー動画は大きく分けて 2 種類作成している。1 つ目はインタビュアーの質問（日本に留学生した理由、学校のいいところ、専門分野への熱意など）に対して回答する形式のものである。もう一方は、留学生の学校での授業風景や食事、買い物などの日常生活にフォーカスした動画である。例として、九州工科自動車専門学校のネパール人学生のインタビュー動画と宮崎福祉医療カレッジの留学生 5 名のランチに密着した動画の画面を掲載する。




図表 5　九州工科自動車専門学校のネパール人留学生のインタビュー動画



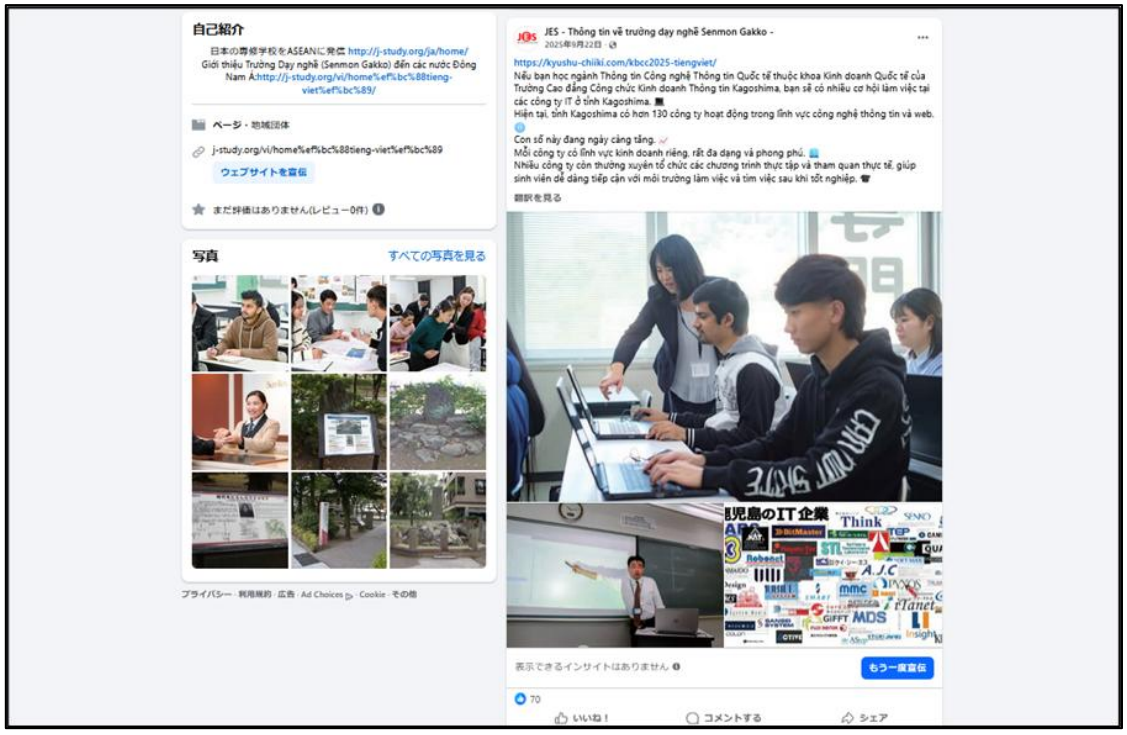

図表 6　宮崎福祉医療カレッジの留学生 5 名のランチに密着した動画

### 3.3.　日本語教育機関との連携

先述のパンフレットや動画を本事業において連携・協力関係のある日本語教育機関において活用している。鹿児島情報ビジネス公務員専門学校の留学生のインタビュー動画の一部は留学生の母国語や英語で話してもらっており、日本語がほとんどできない留学生や希望者へのアピールにも有効である。また、日常生活の動画は実際に九州地域に居住している留学生がどのような生活を送っているのかイメージがわきやすいため、海外の機関からも好評であった。。

### 3.4.　SNS の運用

本事業では SNS を活用し、専門学校や日本・九州の文化、社会に関する情報を発信していく。連携機関として参画している各専門学校も、とくに Facebook などを通じて情報発信を行っている。一方で、発信の中心は日本語であるため、日本に留学する前の希望者には情報が届きにくい面がある。そこで本事業では、連携機関である一般財団法人日本教育基盤財団がベトナム語で運営する Facebook ページ「JES」（2026 年 2 月現在のフォロワー7,197 人）において、専門学校の投稿や関連情報をベトナム語に翻訳し、継続的に届けてきた。以下は、鹿児島情報ビジネス公務員専門学校の国際ビジネス科国際 IT 情報コースに関するベトナム語の投稿である。




図表 7　Facebook ページ「JES」における投稿

本ページの特徴は、学校情報を翻訳して載せるだけでなく、進学検討者に必要な情報を「学ぶ内容」「学ぶ場所」「生活の具体像」の 3 層で一体的に示しているところにある。紹介の中心は、鹿児島情報ビジネス公務員専門学校、宮崎福祉医療カレッジ、九州工科自動車専門学校の 3 校で、分野は IT・介護・自動車整備が主軸である。各投稿では、学科や学習内容の説明にとどまらず、卒業後の仕事とのつながり、学内で身につく実務的な力、進路選択時に確認すべき観点までを提示し、「入学後の自分」を具体的に思い描ける内容にまとめている。

また、進学先としての地域理解を重視し、宮崎県・鹿児島県・熊本県の情報を重ねながら発信を続けてきた。地域投稿は観光案内に偏らず、留学生の生活目線に近い話題を多く含む。たとえば、宮崎の食文化、鹿児島の歴史資源、熊本の地域性などを通じて、授業時間外の過ごし方、日常で触れる文化、地域社会との接点を理解しやすくしている。さらに、季節行事や身近な食の話題といった生活文化の投稿を適切に差し込むことで、専門分野の情報だけでは届きにくい層との接点も広がり、ページ全体の可読性と継続閲覧性の向上にもつながる。

| ジャンル | 投稿数 | 割合 |
|---|---|---|
| 専門学校情報 | 21 | 24% |
| 日本語 | 2 | 2% |
| 日本文化 | 13 | 15% |
| 九州文化 | 45 | 52% |
| キャリア | 6 | 7% |
| **合計** | **87** | **100%** |

**図表 8　Facebook における投稿のジャンル、投稿数と割合**

2025 年 6 月～2026 年 2 月の投稿をジャンル別に集計すると、総投稿数は 87 件である。内訳は、九州文化 45 件（52%）、専門学校情報 21 件（24%）、日本文化 13 件（15%）、キャリア 6 件（7%）、日本語 2 件（2%）となっている。

この構成により、まず九州文化の投稿を入口として地域への関心を喚起し、その後に専門学校情報や日本文化の投稿で、学ぶ内容や学校生活を具体的に理解できる流れが生まれる。さらにキャリア投稿を組み合わせることで、卒業後の進路まで見通せる内容となる。専門学校情報（21 件）とキャリア（6 件）を合わせた 27 件は全体の 31%を占めており、学校選びや将来設計に直結する情報も十分な比重で発信できている。

このように「JES」は、学校 PR の補助媒体にとどまらず、留学検討の初期段階から出願準備、来日前後の生活適応までを一貫して支える情報基盤として機能する。学校情報・地域情報・生活文化情報を分断せず、相互に接続した形で提示することで、読者は「何を学ぶか」「どこで暮らすか」「卒業後にどう働くか」を同時に検討しやすくなる。結果として、単発の告知型発信では得にくい継続的な理解形成が進み、連携専門学校への進学検討を具体的な行動へつなげる役割を果たしている。

さらに、現在の SNS においては、従来のテキスト中心の投稿よりも、短時間で視覚的に情報を伝えられるショート動画が優勢となっている。特に本事業のメインのターゲットとなる東南アジア・南アジアの若年層ではその傾向が顕著であり、静止画や長文投稿よりも、直感的に内容を理解できる動画コンテンツが強く支持されている。代表的なプラットフォームとしては、TikTok や、Facebook の「リール動画」機能が挙げられ、短時間で視聴可能かつ拡散力の高い媒体として活用が進んでいる。

このような動向を踏まえ、本事業で運用している Facebook および TikTok の公式アカウントにおいての活用を意図し、留学生インタビュー動画のショートバージョンを制作している。また、学内外の雰囲気が直感的に伝わるよう、授業風景や日常生活の一場面などを切り取った動画も作成している。このような情報発信により、閲覧数やエンゲージメントの向上を図るとともに、留学生募集や地域定着に向けた効果的な広報手法として活用していく。以下に例として、留学生のランチ風景の Facebook 用横長ショート動画と、学内の授業風景を写した TikTok 用縦長ショート動画の画面を提示する。



**図表 9　留学生のランチ風景の Facebook 用横長ショート動画**




図表 10　学内の授業風景を写した TikTok 用縦長ショート動画

## 4. 体制整備【②在学中の教育指導に関する取り組み】

本事業では、令和 7 年度において「キャリア学習教材の改訂」、「専門課程における学習を支援する教材の試作」を実施した。

### 4.1. キャリア学習教材の改訂

本事業では留学生の専攻ごとに職種や業務内容、キャリアパスなどを説明するキャリア学習教材を開発している。令和 7 年度は IT・情報分野のキャリア学習教材の開発と、介護分野のキャリア学習教材の本格的な開発を行った。

昨年度までに開発した IT・情報分野のキャリア学習教材は、1 単元約 2 分程度で合計 16 単元からなる動画教材である。この教材は、昨年度鹿児島情報ビジネス公務員専門学校の国際ビジネス科情報ビジネスコース 1 年生 17 名に対して、授業『企業研究』において実証として活用した。その後の講師からのフィードバックにより、今年度は以下のような改訂を行うこととなった。

・留学生が自習としても見やすいウェブサイト形式にする
・動画教材の内容を理解しきれなかった場合のために内容のまとめを提示する
・単元ごとに学んだ内容の理解度を確認するテストを設定する

上記の方針から IT・情報分野のキャリアを学習するためのウェブサイト「IT 人材のキャリア」を開発した。例として以下に単元 1「IT 業界とは」のウェブサイトの画面を掲載する。




図表 11　単元 1「IT 業界とは」のウェブサイトの画面イメージ

ページ内では単元ごとの動画教材を見ることができるようになっており、その後に動画教材の解説、理解度チェック問題 3 問と解答・解説、動画教材の要点まとめが続いている。これによって、留学生が動画教材を見るだけでなく、分からなかった内容を確認したり、知識の理解度を自身でチェックしたりすることを可能にした。

次に、介護分野のキャリア学習教材は昨年度以下の 3 パターンの試作を既に行った。

A. ネイティブレベルの日本語での講義（資料に振り仮名なし）
B. N3 を基準とした平易な日本語での講義（資料に振り仮名あり）
C. N3 を基準とした平易な日本語での対話（資料に振り仮名あり）

上記の中から A は日本語能力が高い 2 年生の留学生を対象に、C を入学してすぐの 1 年生や入学が決まった進学予定の留学生を対象として展開していくこととなった。そして、今年度は 2 年生対象のキャリア学習教材（パターン A）について全体版の本格的な開発を行った。昨年度の試作では、『導入』『「介護」とは何か』『「介護」と「お年寄りのお世話」の違い』『「介護」と「看護」の違い』『「介護福祉士」とは何か』という計 5 テーマをプロトタイプとして開発したが、全体版の開発にあたって必要なテーマを検討・選定したうえで、以下のような全 4 章で計 34 単元からなる構成とした。

1 章　職業理解
介護の仕事① 介護とは何か
介護の仕事② 「お年寄りのお世話」との違い
介護の仕事③ 「看護」との違い
介護の職場① 施設サービス
介護の職場② 居宅サービス
介護の職場③ 地域密着型サービス
社会の動き① 少子高齢化と労働力不足
社会の動き② 地域包括ケアシステム
社会の動き③ テクノロジーの進化と介護への応用
業界の動向① 外国人介護人材の受け入れ
業界の動向② 労働環境や待遇の改善

2 章　職業意識
介護福祉士の倫理基準（行動規範）
①利用者本位・自立支援
②専門的サービスの提供
③プライバシーの保護
④総合的サービスの提供と積極的な連携、協力
⑤利用者ニーズの代弁
⑥地域福祉の推進
⑦後継者の育成

3 章　コンピテンシー
　介護人材に求められる力
　A-1 コミュニケーション能力｜利用者や家族とのコミュニケーション
　A-1 コミュニケーション能力｜職員や他職種とのコミュニケーション
　A-2 チームワーク、協働力
　A-3 多様性理解と信頼関係づくり
　B-1 状況判断力
　B-2 介護技術と体力
　B-3 学習力・成長力

4 章　キャリア
　キャリアパスとは何か
　代表的なキャリアパス
　介護福祉士とは何か
　キャリアプランとは何か
　キャリアプランの立て方
　キャリアビジョンとは何か
　キャリアビジョンを考えるヒント

**図表 12　介護分野のキャリア学習教材　全 4 章 34 単元一覧**

教材の形式は動画であり、1～2 分程度で 1 単元分が構成されている。各単元で扱う内容を説明するスライドが画面に大きく表示されており、右側に解説を行う講師役のアバターを表示している。例として単元 1『介護の仕事① 介護とは何か』と単元 34『キャリアビジョンを考えるヒント』の画面を掲載する。




**図表 13　単元 1『介護の仕事① 介護とは何か』の画面イメージ**




図表 14　単元 34『キャリアビジョンを考えるヒント』の画面イメージ

## 4.2. 専門課程における学習を支援する教材の試作

本事業では、専門課程における学習を支援する教材の開発を行う。今年度はIT・情報分野の専門課程での活用を想定し、『プログラミングのための数学基礎』と『AI活用開発プロジェクト』の2種類の教材の試作を行った。

『プログラミングのための数学基礎』は、プログラミング学習に不可欠となる算数・数学の基礎事項を体系的に復習するためのウェブ教材である。全体は以下に示す15単元で構成されている。

| |
|---|
| 01 基本の計算 |
| 02 倍数と約数 |
| 03 素数 |
| 04 平面図形の面積 |
| 05 立体図形の体積 |
| 06 代表地 |
| 07 割合・百分率 |
| 08 比 |
| 09 文字式 |
| 10 方程式 |
| 11 比例・反比例 |
| 12 連立方程式 |
| 13 一次関数 |
| 14 場合の数 |
| 15 確率 |

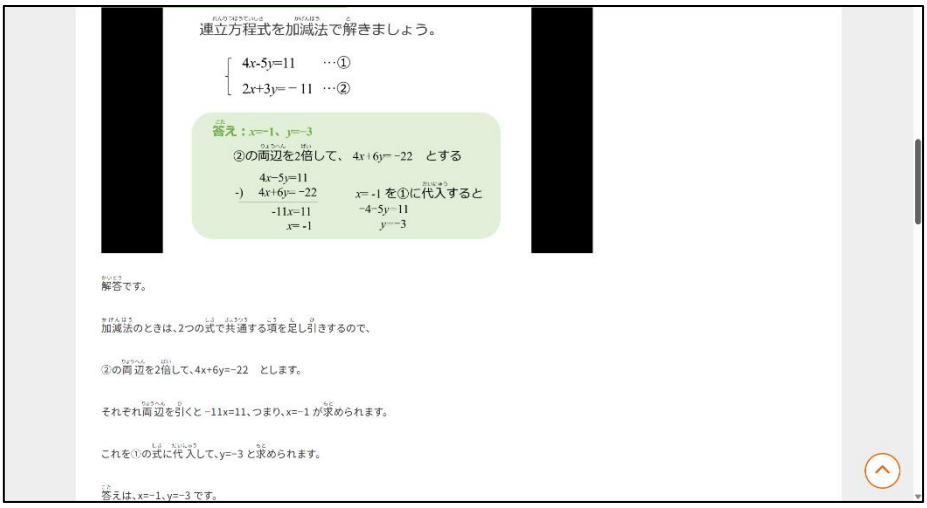
**図表 15　『プログラミングのための数学基礎』　全 15 単元一覧**

各単元には内容を解説する「教科書」動画教材を配置し、その理解度を確認するための「基本問題」と、思考力を一段引き上げる「応用問題」を用意している。留学生の場合、出身国によって初中等教育段階で扱う算数・数学の範囲や深度が異なることがあり、さらに数学を不得意とすることも少なくない。こうした背景を踏まえ、前提知識の差を埋め、専門科目への円滑な接続を実現するために本教材を開発した。

次のページに単元 12「連立方程式」の「教科書」動画と「基本問題」の画面を掲載する。




図表 16　単元 12「連立方程式」の「教科書」動画の画面イメージ

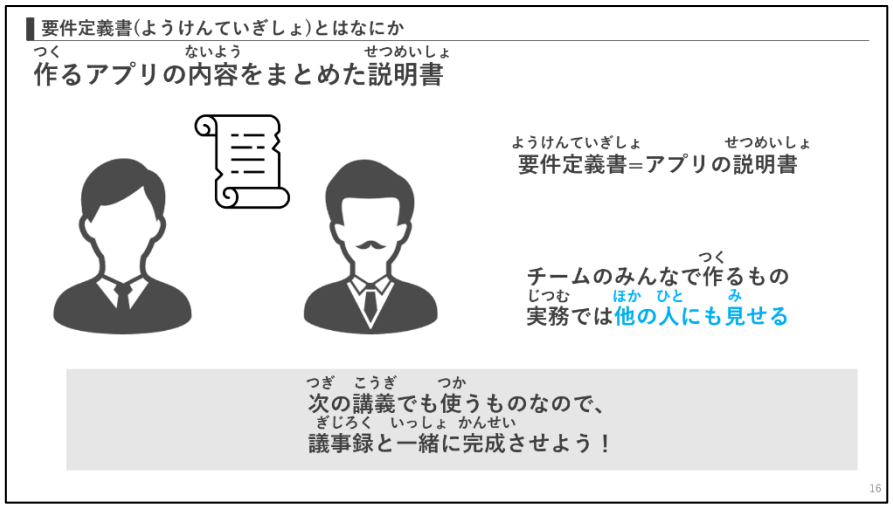



図表 17　単元 12「連立方程式」の「基本問題」の画面イメージ

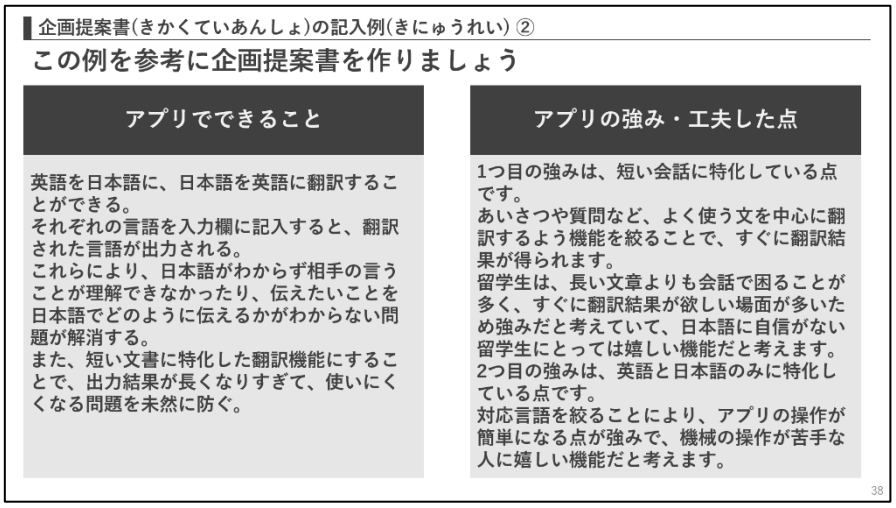
もう 1 つの開発教材である『AI 活用開発プロジェクト』は、翻訳アプリ開発をテーマとした演習型授業用教材である。教材は講義資料とワークシートによって構成され、学習者が段階的に成果物を作成できる設計としている。全体は①要件定義、②企画提案書作成、③プロトタイプ開発の三部構成であり、実際のシステム開発プロセスを踏襲した流れで進行する。受講者はグループワークを通じて議論・分担・検証を重ねながら成果物を完成させる。

ドキュメント作成段階ではチャットボット型生成 AI を活用し、要件整理や文章構造化を効率化する。プロトタイプ開発ではコーディング特化型生成 AI ツールを用い、コード生成やデバッグ支援を受けながら実装を行う。これにより、学習者は単にアプリを作るだけでなく、AI を組み込んだ現代的な開発手法そのものを体験する。

本教材の主目的は、留学生に対して就職後の実務の流れを疑似体験させ、業務全体像を理解させる点にある。同時に、実際の企業現場で導入が進む生成 AI 活用を体験させ、即戦力として求められる AI 活用スキルと協働開発能力を涵養することを狙いとしている。
以下に例として、講義用資料とワークシートの記入例を掲載する。




**図表 18　『AI 活用開発プロジェクト』講義用資料イメージ**




図表 19　『AI 活用開発プロジェクト』ワークシートの記入例イメージ

## 5. 体制整備【③在学中の在籍管理および生活支援サポートに関する取り組み】

本事業では、令和 7 年度において「生活指導用コンテンツの試作」を実施した。

### 5.1. 生活指導用コンテンツの試作

『生活指導用コンテンツ』は、留学生を対象として日本での生活に必要な基本事項を体系的に学ばせるための教材である。主に入学時のガイダンスでの活用を想定して設計しており、スライド型教材として講義形式で使用できる構成としている。教職員がそのまま投影し、ノート部分に記載された解説を加えながら進行できるため、統一的かつ効率的な生活指導が可能となる。

さらに、ノートの解説にもとづいたナレーションを加えて同内容の動画コンテンツも制作しているため、ガイダンス後に自習教材として視聴させることも可能である。欠席者対応や理解度の再確認、繰り返し学習にも対応できる設計としている。内容は、以下に提示する 6 テーマで構成されており、留学生が日本で生活するうえで守らなければならない法令、社会的ルール、日常生活上のマナー、トラブル防止のための注意事項に特化している。

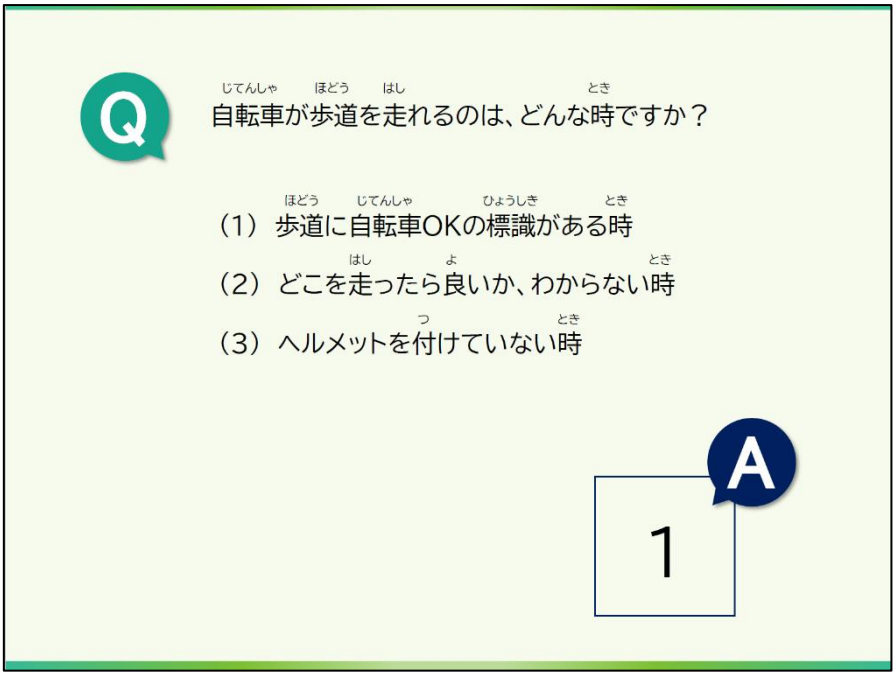
| |
|---|
| 1　アルバイトについて① |
| 2　アルバイトについて② |
| 3　ゴミ出しについて① |
| 4　ゴミ出しについて㉒ |
| 5　交通ルールについて |
| 6　災害時の行動について |

**図表 20　『生活指導用コンテンツ』　テーマ一覧**

アルバイトに関する章では、一般的な制度だけでなく近年生じている新しい問題としての闇バイトの危険性と法的責任を明確に示し、安易な応募による犯罪関与を防止する観点を盛り込んでいる。交通ルールについては自転車に関する法改正など最新の情報を反映し、現行制度に即した内容としている。さらに、最後には取り扱った内容の理解度を確認する簡単なテストも付けており、留学生が安全かつ適切に日本社会で生活するために必要な知識を身につけることができることを重視し開発した資料・動画となっている。以下に例として『アルバイトについて②』の資料と『交通ルールについて』のテストの画面を提示する。




図表 21　『アルバイトについて②』の資料イメージ




図表 22　『交通ルールについて』のテストイメージ

## 6. 体制整備【④就職・定着支援に関する取り組み】

本事業では、令和 7 年度において「業界団体・企業との連携体制の構築」を実施した。

### 6.1. 業界団体・企業との連携体制の構築

今年度は自動車整備分野と IT・情報分野において企業との連携体制による特別講義を行った。

自動車整備分野では、自動車系企業の人事担当者を講師として、留学生に特化した就職ガイダンスと模擬面接を行った。その概要は以下の通りである。

| | |
|---|---|
| 実施校 | 九州工科自動車専門学校 |
| 日時 | 第 1 回：12/9（火）9:00～11:50, 12:50～15:40<br>第 2 回：12/10（水）9:00～11:50, 12:50～15:40 |
| 受講者 | 国際自動車科<br>3 年生 計 5 名（全員留学生）<br>2 年生 計 29 名（全員留学生） |
| 内容 | 第 1 回：就職ガイダンス（前半：2 年生、後半：3 年生）<br>第 2 回：模擬面接（2 年生のみ） |

**図表 23　自動車整備分野の特別講義概要**

自動車整備分野を学ぶ留学生のみを対象に 2 日間で実践的な内容を提供した。第 1 回は学年別に内容を分けて実施した。就職活動を控える 2 年生に対しては、求人票の読み方、在留資格との関係、企業研究の方法、履歴書作成の要点など、実際の就職活動で直ちに役立つ知識と事前準備事項を整理して提示した。一方、就職先が既に決定している 3 年生に対しては、入社後に起こり得る職場内トラブルの事例、日本人上司・同僚とのコミュニケーション上の留意点、労働契約や服務規律に関する基礎知識など、定着を見据えた内容を扱った。

第 2 回は 2 年生を対象に模擬面接を実施し、受け答えの内容、態度、言語運用能力について具体的なフィードバックを行った。面接は実際の企業の人事担当者が担当し、評価基準や質問内容も実務に即したものであったため、真正性の高い機会となった。この特別講義により、留学生が就職活動から入社後までの流れを具体的に理解し、実践力を高めることができた。以下に就職ガイダンスの様子と模擬面接の様子の写真を掲載する。




図表 24　就職ガイダンスの様子



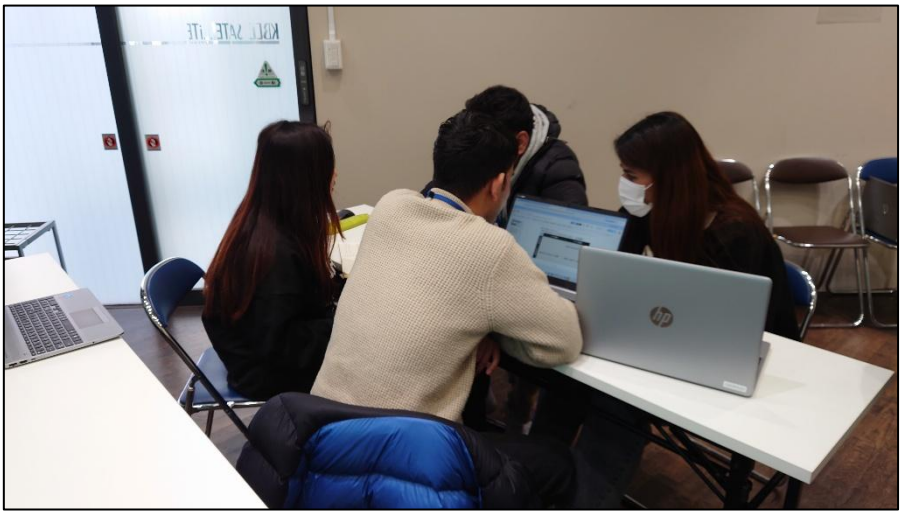
図表 25　模擬面接の様子

IT・情報分野に関しては、今年度特別講義という形で『AI 活用開発プロジェクト』教材の実証講座を行った。講師は IT の開発系企業の役員であり、実際に AI を活用したプログラミングや開発を行っている実務者である。特別講義の概要は以下である。

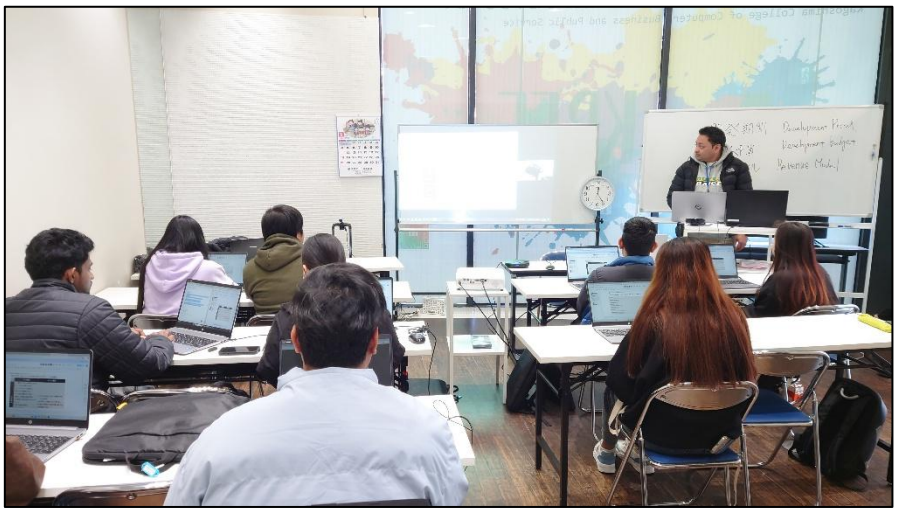
| | |
|---|---|
| 実施校 | 鹿児島情報ビジネス公務員専門学校 |
| 日時 | 第 1 回：1/6（火）9:30～12:40<br>第 2 回：1/13（火）9:30～12:40<br>第 3 回：1/20（火）9:30～12:40 |
| 受講者 | 国際ビジネス科国際 IT 情報コース<br>2 年生　計 14 名（全員留学生） |
| 内容 | 第 1 回：アプリのアイディア立案と要件定義書作成<br>第 2 回：アプリの企画提案書作成<br>第 3 回：コード補完ツールを活用したアプリのプロトタイプ開発 |

**図表 26　IT・情報分野の特別講義概要**

受講者の留学生は 4 または 5 人で 1 グループとなり、アプリのアイディア立案からプロトタイプ開発までのワークを実施した。以下に授業におけるグループでのディスカッションの様子と発表の様子の写真を掲載する。



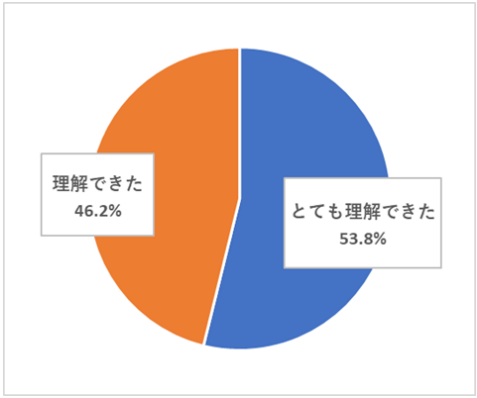
**図表 27　グループでのディスカッションの様子**

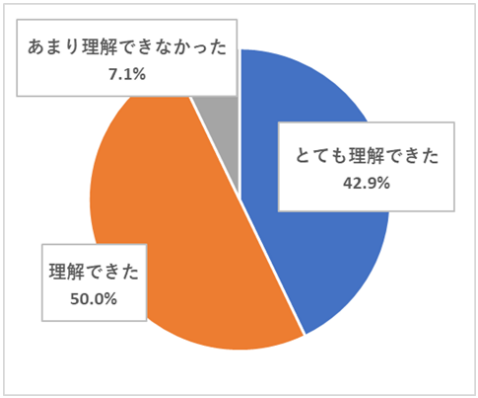


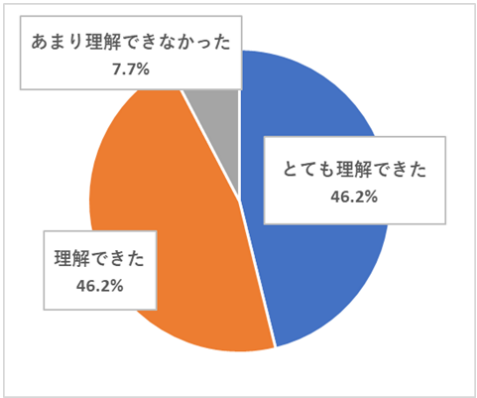
**図表 28　発表の様子**

実証の一環として第 1 回から第 3 回までの各授業後に「理解度」「積極性」「意見・感想」に関する項目でアンケートを行った。その結果を以下に提示する。

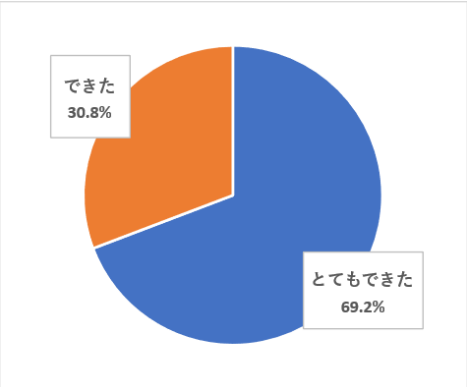
①今日の授業は理解できましたか。（左上：1 日目、右上：2 日目、左下：3 日目）

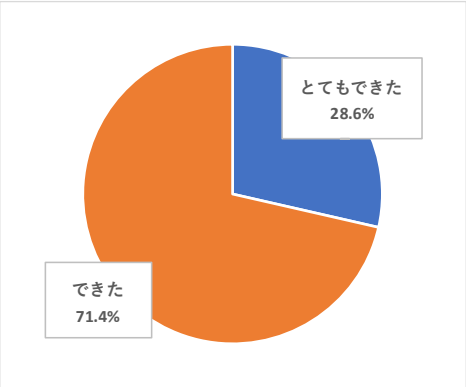


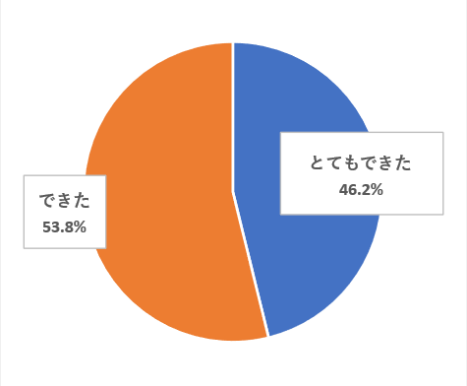



②グループワークは積極的にできましたか。（左上：1 日目、右上：2 日目、左下：3 日目）




③感想や意見がありましたら自由に記入してください。

1 日目
・とても役に立ちました今後ともよろしくお願いします。
・これからの実際の仕事に役に立つと思うのでとても嬉しいです。
・私の目的もアプリ開発なので、今日の授業はいいかなと思いました。
　とても嬉しかったです。
・これからの仕事に実際に役に立つと嬉しいです。
・今日の授業を受けてとてもよかったとおもいます。
　これから実際にする仕事でも役に立つと思っております。
　よろしくお願いします。
・嬉しかったです。
・ありがとうございます。

2 日目
・1 回の授業より 2 回の授業でいろいろ学ぶことができました。
　3 回の授業でもっと学びことができると期待しています。
・今日 2 回目の授業を受けて 1 回よりすごくわかりやすかったです。
　いろいろ考えましたが AI 使ったり先生に聞いたり内容としては勉強になりました。
　今後ともよろしくお願いします。
・とても勉強しました。
・発表を理解できるようになりました。

・みんなの発表を理解できました。
・先生からいろいろなフィードバックをもらって変えるところがまだ多いと思いました。
・2 回目の授業を受けてとてもいい勉強になりました。
・今まで勉強したことと同じでした。
・とてもいい勉強になりました。
・凄く勉強になりました。
・発表でみんなの意見を見て自分が考えてなかったところを理解した。
・みんなの発表を理解できました。

3 日目
・新しいことを学んでとても楽しかった。
・すばらしいことをできて嬉しい。
　これから色々な翻訳アプリを作っていきたいと思います。
・新しいことを学んでアプリを作成して楽しかった。
・プロトタイプを作って、アプリ作りはむずかしいですが楽しいと思いました。
　生成 AI を使うことで、分からないところをすぐに解決できました。
　これからもっと機能を増やして、使いやすいアプリにしたいです。
・とっても勉強になりました。
　自分がしたかった良いアプリできなかったですが、これから上手に AI プロンプトを使えるように頑張っていきたいです。
・難しいかったけどできました。
・今まで習わなかったことを学べてとても将来的に役に立つと思います。
・分からなかったことをたくさん勉強にできました。
・楽しかったです
・もっともっと AI 勉強したい。
　本日は新しいことを教えてくれて、ありがとうございます。
・初めて自分でアプリを作ってとても嬉しかったです。
　また思った通りにできました。
・短い間でも色々新しいもの教えてくれてうれしいですね。
　ちょいと長い時間あったほうがいいと思います。
・今まで学んでいないことが学ぶことができてとても嬉しいです

「理解度」の観点から行くと、2 回目・3 回目と成果物の難易度や AI 活用のレベルが上がってくため、「あまり理解できなかった」という回答もあったが、大半の受講者が肯定的な回答をしている。また、「積極性」に関して全受講者がすべての回でグループワークに積極的に取り組むことができた。自由記入の感想・意見では、第 1 回から「実際の仕事に役に立つ」という意見が目立っているが、半数近くが感想を記入していなかった。しかし、第 2 回・第 3 回と回を重ねるごとに意見・感想が増え、新しいことや実践的な内容を学習することができたことに対する喜びや、さらなるスキルアップへの意欲が見られるようになった。今年度は実証として計 9 時間程度の短時間での実施となったが、次年度はさらに長期間・長時間で設定を行い、より精度の高い成果物の作成や実践的な開発手法を学んでいく機会を提供することを目指す。